

議事要旨(2) IASBディスカッション・ペーパー「動的风险の会計処理：マクロヘッジに対するポートフォリオ再評価アプローチ」へのコメント対応

冒頭、小野委員長より、IASBディスカッション・ペーパー「動的风险の会計処理：マクロヘッジに対するポートフォリオ再評価アプローチ」（以下「本DP」という。）へのコメント対応について、第113回金融商品専門委員会（9月11日開催）における審議の進行状況について説明を行った後、板橋ディレクターより[審議事項(2)]に基づき詳細な説明がなされた。

説明に対する委員からの主な質問や意見と、それらに対する事務局からのコメントは次のとおりである。

- ある委員より、次の発言及び質問があった。
  - 総論を述べている 3 項の「(IFRS 第 9 号における) 事業モデルに基づく会計処理と大きく相違することで、IFRS 第 9 号で結論付けたことと矛盾するため、PRA に懸念を有している」という文案は、ポートフォリオ再評価アプローチ (PRA) に対して ASBJ のネガティブなトーンを示す箇所であり、非常に重要であるため、このままコメントに記載して欲しい。
  - 総論を述べている 5 項の「行動予測の特性を財務諸表に反映させる場合、検証可能性を十分に確保する観点から、行動予測特性を決定するための十分なガイダンスを設けることを前提とすべきではないかと考える」という文案は、そもそも十分なガイダンスを設ける事が困難であると考えている。
  - 7 項の「DP において提案されている OCI を通じた PRA のアプローチについて更なる検討を行うことは不要と考える」という文案は、結論自体には賛成である。しかし、そもそもコメントが PRA 自体に対してネガティブであるというスタンスであるため、追加的に PRA の代替的アプローチを検討する必要があるというロジックに修正することを検討して欲しい。
  - PRA または行動予測特性に関する回答文案のトーンが、質問によってネガティブ (反対) とポジティブ (賛成) が不一致のように見受けられる質問がある。文案修正を検討して欲しい。
  - 反対意見がある事は理解しているが、PRA の代替案として、ヘッジ手段であるデリバティブの評価額の変動を OCI に計上するアプローチの検討を提言するコメントの記載を検討して欲しい。

これに対して、事務局より、以下の説明があった。

- 指摘された各項目の文案修正については、更に検討を行う。

- ある委員より、次の発言及び質問があった。
  - いくつかの質問に対する回答として「十分なガイダンスを設ける事を前提とする必

要があると考える」という文案がある。これを「十分なガイダンスを設ける事ができる場合に限り」という様な強い表現に変更したらどうか。

これに対して、事務局より、以下の説明があった。

- 指摘された項目の表現の修正を検討する。

以 上